

新規事業採択時評価結果（令和2年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：渡辺 学

事業の概要

事業名	スマートICアクセス 市道 岡崎阿知和スマートインター線	事業区分	地方道	事業主体	岡崎市
起終点	自：愛知県岡崎市東阿知和町字川田 至：愛知県岡崎市西阿知和町字上山ノ田	延長	1.6km		
<p>事業概要</p> <p>市道岡崎阿知和スマートインター線は、岡崎阿知和スマートICと市道岡崎環状線間を結び、市内の幹線道路の渋滞緩和、阿知和地区工業団地計画や周辺産業の支援に大きく寄与する幹線道路である。</p> <p>当該道路は、周辺市街地の渋滞の緩和、計画される阿知和地区工業団地関連交通の円滑な交通処理を目的に、1.6kmの幹線道路を整備するものである。また、2025年（令和6年度）の同時整備予定の岡崎阿知和スマートICへのアクセス向上、利便性向上にも寄与する。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>阿知和地区工業団地は、2025年（令和6年度）までに完成し、その後分譲の見通しが示されていることから、当該事業の整備により、市内の幹線道路の渋滞緩和、及び開発交通量の円滑な交通の確保が図られ、物流の効率化や阿知和地区工業団地計画の支援等に寄与することが期待されている。</p> <p>全体事業費 3.2億円 計画交通量 3,400台/日</p> <p>事業概要図</p>					
<p>関係する地方公共団体等の意見</p> <p>地元商工会議所、地元町内会から早期開通を要望されている。</p>					

学識経験者等の第三者委員会の意見
新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
・費用対便益：便益が費用を上回っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.0	総費用：28億円 （事業費：25億円 維持管理費：2.5億円）	総便益：55億円 （走行時間短縮便益：51億円 走行費用減少便益：3.9億円 交通事故減少便益：0.34億円）	基準年：令和元年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.8 (交通量 +10%)	B/C=2.2 (交通量 -10%)		
		事業費変動	B/C=1.8 (事業費 +10%)	B/C=2.2 (事業費 -10%)		
		事業期間変動	B/C=1.9 (事業期間 +20%)	B/C=2.0 (事業期間 -20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	市街地部交通の減少により混雑が緩和 【交通混雑の緩和】 ・当該路線の整備により、朝・夕のピーク時に工業団地等への通過交通等で混雑する（一）長沢東蔵前線で1,400台/日、（市）岡崎環状線で1,100台/日が転換することで混雑が緩和。		
		事故対策	—	・注目すべき影響はない。		
		歩行空間	○	歩道の整備により、歩行空間が確保され、歩行者の安全・安心な通行の確保 ・近傍の小・中学校周辺部の交通量の減少により、歩行者の安全・安心な通行を確保。		
	社会全体への影響	住民生活	○	・当該道路の整備により交通転換が図られ、周辺の生活道路の交通量が減少し、周辺環境の改善が期待される。		
		地域経済	◎	高速道路へのアクセス時間の短縮により、物流の効率化に寄与する。 ・近傍の工業団地から高速道路（IC）へアクセス時間の短縮 阿知和地区工業団地（計画）から 整備前14分⇒整備後9分【5分短縮】 花園工業団地から 整備前18分⇒整備後16分【2分短縮】		
		災害	○	・第1次緊急輸送道路に位置付けられている東名高速道路と連結することにより、緊急輸送ネットワーク機能が強化される。		
環境		—	・注目すべき影響はない。			
地域社会	○	・高規格幹線道路である東名高速道路と連結して、広域的なネットワークを形成し、愛知県都市部や関西・関東方面へのアクセス性の向上が図られる。				
事業実施環境	○	・地元商工会議所、地元町内会から早期整備の要望を受けている。				

採択の理由

費用便益比が2.0と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件を確認できる。
また、当該道路と岡崎阿知和スマートIC(仮称)や阿知和地区工業団地(計画)との一体的な整備により、交通混雑が緩和することによる周辺環境の改善や、高速道路ICへのアクセス時間の短縮による物流の効率化、さらに、災害時における緊急輸送ネットワークの強化が図られるなど事業の必要性・社会全体への効果は高いと判断できる。
以上により、本事業は、令和2年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。